



図 2
感染率
ピアス経験者は未経験者に比較して、すべての金属で感染率が低く、特に金で著しい。

ようにニードル法では穿刺した孔と装着したピアスの径が異なるのでその隙間に血液が貯留し感染の頻度が高くなる。14 ゲージの太い穿孔用ピアスが装着されたボディピアッシャー⁴を用いるのが安全である。

法的規制

欧米ではピアッシングは宝飾店・美容院で行われているが、我国では「客の耳に穴をあけイヤリングを装着させる行為」は医療に該当するという昭和47年の厚生省見解(医事発123号)に基づいて行政指導が行われており、ときたま違法ピアッシングとして新聞を賑わせている。

10 数年前に筆者がピアスに関りはじめた頃はピアッシングを行う医療機関は少なく、またあっても注射針で行っているところがほとんどであった。ピアス希望者は法的是非はともかくとして医療機関が行っていない以上、自分で行うか宝飾店等に依頼するしか選択肢はなかったのである。今ではたくさんの医療機関がピアッシャーを使ってピアッシングしており、それに伴って宝飾店等でのピアッシングはみかけなくなった。しかしボディピアスにおいては10年前の耳のピアスと同じ状況にある。希望者は医療機関で断られてボディピアス専門と称する一部の店舗に出向いているのである。そこでは12 ゲージ針で穿刺して14 ゲージのピアスを手動的に装着している。耳のピアスに

くわべて遥かに侵襲的であるにもかかわらず行政は放置しているのが現状である。十分な長さのある14 ゲージの穿孔用ピアスを装着したボディピアッシャーを用いたピアッシングが普及すれば、このような違法行為は自然淘汰されていくであろう。

ピアッシング後のケア

ピアッシング直後の孔は単なる創傷にすぎない。処置を行うべき創傷は耳垂表面ではなくピアス軸が接触する深部にある。私はジェル状の消毒剤を使用して処置を行なうよう指導している。すなわち、耳垂よりも少し長い軸のピアスを使用し、その軸にジェルをつけて前後にずらすことによって創面にジェルを行き渡らせ、創面から出る浸出液を創外に誘導しようというものである。これを入浴前に行なってシャワーですべてを洗い流して、その後は乾燥させておく。

ピアス皮膚炎の治療

ピアッシングし上皮下化が完了するまでの間、あるいは完了してもピアスを装着しようとする際に傷つけて細菌感染が起こり、蜂窩織炎・膿瘍を形成することは珍しくない。またピアス素材によっては接触皮膚炎をきたすことも日常よくみられることである。これらはピアス皮膚炎と一括して呼ばれている。ピアス皮膚炎が起きた際にピア